

精神文化学会 第15回 学術大会

日時:令和7(2025)年11月2日(日)

会場:京都産業大学 第2研究室棟 会議室

大会テーマ「家族論」

受付

13:45

第16回総会(会員限定)

14:00-14:10

司会 幹事 海老名宜陽

開会挨拶

14:10-14:15 理事 岡田晋亮

基調講演

司会 専務理事 徳田季晋

14:15-14:45 会長 近藤 剛

「<家族解体論>駁論」

育児の社会化、夫婦別姓運動には、「家族からの解放」という思想が底流しているように思われる。その淵源である<家族解体論>について、エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』やロシア共和国およびソビエト連邦の家族法典を参照しながら考察し、共産主義イデオロギーにおける家族像の特徴とその問題点を明らかにする。また、こうした思潮の発端となったルソー思想(主に『人間不平等起源論』)を批判的に取り上げ、歪んだ家族像を是正する可能性について論じる。

研究発表

司会 幹事 溝浦健児

14:45-15:15 森 一郎

「現代家族の諸問題とその解決策 —『先人の智慧』を生かした公民科の授業案—」

日々の新聞では、離婚などの家族の解体、親が子に対する暴力(虐待)および、子が親に対する暴力(虐待)、さらに不登校、ひきこもり、ニートの問題など、多かれ少なかれ家族と深い関わりをもって

いるニュースが散見される。本発表では、以上の点を踏まえて、高等学校公民科において、家族の問題をどのように授業化するかを検討する。内容としては、まず現代家族の特徴を過去の家族の特徴と比較し、その違いを明らかにする。次に家族の問題は、内容こそ異なるものの過去にも存在したことを理解し、そのために現在家族の問題を解決するための一つの方法として「先人の智慧」取り上げて検討する。その際、家族についての伝統的な行事を一つの事例とし、その中から現代家族の問題を解決するヒントを探っていく。以上のような手順で、具体的な公民科での授業案を提示する予定である。

15:15-15:30 intermission

15:30-16:00 徳田 季晋

「『不敬の時代』の処方箋 ～家族の再生と『報本反始』の精神～」

筆者は日々の生活の中で「失礼だ」と感じることが多い。物を人に頼む時の姿勢や言葉遣いにはじまり、歴史・伝統・文化を顧みることなく謳われる「革命」「改革」の売り文句など、例を挙げるときりがない。思想家ジョージ・スタイナーはこのような時代状況を「不敬の時代」と呼び、あらゆるものが懐疑と批判の対象となっていると指摘している。本稿ではスタイナーのいう「不敬の時代」の根本原因を社会の最小単位といえる「家族」の機能不全と捉え、近代保守思想のエドモンド・バークと、古代東洋の思想家である孔子の議論を援用し考察する。バークが社会安定の礎とした「世代間で継承される伝統」と、孔子が道徳の基本とした「家族内で学ぶ『礼』」の双方を、現代の家族が喪失していることを指摘し、最後に処方箋として、自らの根源に感謝する「報本反始」の精神と、その実践としての「礼」の再生を提言したい。

16:00-16:30 海老名宜陽

「妻子共有論 ——プラトンの『国家』を中心に——」

プラトンは『国家』において、理想的な国家では、すべての妻と子はすべての男たちに共有されなければならないと説いた。プラトンの描く理想的な国家では、妻も子供も国家のものであり、私的な家庭は否定される。この妻子を共有する発想は、プラトンの独創ではないことが知られている。プラトンと同時代の喜劇作家アリストパネスの『女の議会』でも類似の主張が見られており、当時のギリシア世界においては、まったく新奇な発想ではなかったものと考えられる。だがそれでも古代から現代までの間、妻子を共有するこの考えは風変わりなものと捉えられてきており、アリストテレスからも、妻子共有は理想的な国家の成立には益しないものとして、批判を加えられている。このような妻子を共有し家庭を否定する社会が実現した場合、どのようなものとなるかを、アリストテレスらの批判も参照しながら考察していきたい。

閉会挨拶

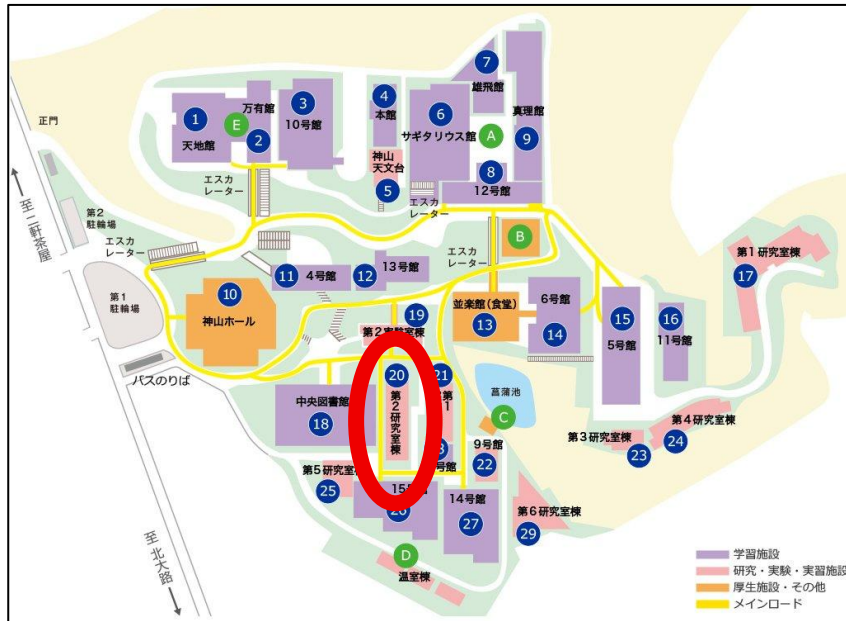
16:30-16:35 理事 能村晋平

記念撮影

懇親会

17:30-19:30 o・mo・ya 東洞院

【京都産業大学 第2研究室棟 会議室】



【o・mo・ya 東洞院】

